

## (1) 別紙1 (実施計画書)

※A4判、縦方向、横書き、11ポイントで作成すること。別添の図も含め10ページ以内で作成すること。

# 令和8年度独立行政法人教職員支援機構地域センター事業実施計画書

機関名 信州大学センター

## 1 事業目的

信州大学センターは、独立行政法人教職員支援機構（NITS）と信州大学大学院教育学研究科の連携協定（2016年）による協力関係を基盤に、2020年度に信州大学教職大学院の社会貢献活動の一環として、NITSの地域センターとしての役割を担う目的で開設された。主な役割は、信州大学教職大学院の教育力と特色を活かした教職員向けの研修講座を実施することであるが、地元長野県内の教育委員会をはじめ、近隣の他の自治体の研修機関との連携による地域貢献型の研修を実施することである。また、NITS本部が掲げる方針に同調しつつ、ユーザーサイドに立って教職員が主体的に取り組める研修のあり方を研究することも目的としている。

なお、①「研修観の転換に向けた教職員の学びに関する取組」と、②研修観の転換に向けた「学び合いのコミュニティ」づくりに関する取組という観点を踏まえて、受講者にとって主体的・協働的で深い学びになるような講座を企画するとともに、校内研修の改善に資するような研修内容・方法のモデルを提示する講座事業を展開することを目指す。

## 2 実施内容

令和8年度もこれまで信州大学センターが展開してきた事業を可能な範囲で継続する方針ではあるものの、配分予算に応じて事業全体を見直し、これまでの外部機関との連携関係を尊重しながらも、講座内容を精選して持続可能な研修事業になるよう事業の再設計を行った。

また、①研修観の転換に向けた教職員の学びに関する取組と、②研修観の転換に向けた「学び合いのコミュニティ」づくりに関する取組、という2つの観点到合わせて講座内容を構成した。

### (1) 研修観の転換に向けた教職員の学びに関する取組

#### A) 中核教員養成研修（通年研修）

長野県内の15ブロックごとに推薦された最大30名の中堅教員を対象に、各地域において求められる教育実践をリードしていける中核的な教員を養成する。1年間にわたる多様なメニューを組み合わせたプログラムを長野県教育委員会・学びの改革支援課との共催により提供する。なお、受講者（教員）を6グループに分け、定期的にオンラインでのグループミーティングを行う。  
◇具体的な内容はこれまでの研修を精選し、以下の7項目を予定している。

① スタートアップ研修：理念の共有（基調講演および教育委員会からの指導講話）

<4月>オンライン・グループミーティングⅠ

② 総合教育センターの希望研修講座受講（自己課題に応じて2講座を選択履修）

<6月>オンライン・グループミーティングⅡ

③ 最新の教育事情にかかわる講義・演習（講師：信州大学教授 伏木久始）

※午前の部は講義と演習／午後の部は2学期以降の実践プランの策定（探究的な学びを誘導）

<8月>オンライン・グループミーティングⅢ

④ 学校づくり実践研修（勤務校での応用実践）

⑤ 中間報告会

<12月>オンライン・グループミーティングⅣ

⑥ 「学びの改革フォーラム長野」（1月末）での成果発表

## ⑦自己課題の研修成果についてのオンライン・グループミーティングⅤ（2月）

### **B)「更新し続ける教育観」（6月8日／7月18日）**

教職大学院の選択科目「更新し続ける教育観」の授業内容の一部を長野県総合教育センターの希望研修講座としてプログラム化した連携講座であり、教職大学院の学生と長野県の現職教員とが協働して学び合う研修講座である。これまでの教材化のあり方や子どもへのアプローチについて省察し、子どもとつくる授業について具体的な実践事例を通して学ぶことになる。

<6/8午前>①「教師の教育観と授業」（講義・演習）（講師：信州大学教授 谷内祐樹）

<6/8午後>②「教室の中の異文化理解」（講義・演習）（講師：信州大学教授 徳井厚子）

◇参加者同士の分かち合い（ワークショップ）

<7/18午後>③「個別と協働」（講義・演習）（講師：信州大学教授 伏木久始）

### **C)「へき地・小規模校における教育実践」（7月27日／1月23日）**

教職大学院の必修科目「へき地・小規模校における教育実践」の授業内容の一部を長野県総合教育センターの希望研修講座としてプログラム化した連携講座であり、へき地校のフィールドワークとそのレポート報告を条件に受講している教職大学院の学生と長野県の現職教員とが協働して学び合う研修講座である。

小規模校・少人数学級の条件を強みに変え、個別最適な学びを実現させるための基本的な考え方を理解し、自校の子どもの実態に即した教育実践を構想するための実践的な研修である。

前半（7月）は集合対面研修。南信州サテライトキャンパスを会場に実施する。

後半（1月）はオンライン研修。前半研修で学び計画した内容を実践した成果を報告する。

◇7月対面研修の主なメニュー

<午前の部>

①「少人数の良さを生かす授業づくり」（講義・演習）（講師：信州大学教授 伏木久始）

②「子どもの自律的な学びを支援する学校づくり」（実践発表）（講師：公立学校教諭）

<午後の部>

③「小規模校ならではの実践を構想する」（ワークショップ）（講師：伏木久始・関浩司）

④ふり返りとまとめ（長野県総合教育センター専門主事）

### **D) 講師派遣（通年事業）**

校内研修や研究授業等のあり方について、それまでの慣習やルーティン等を見直し、何を目的にし、どのような状態をゴールにするのかを共通理解した上で、研修会の企画・運営に悩む管理職や研究（研修）主任の悩みに寄り添い伴走しながら、「研修観の転換」に即した助言指導を行う。テーマ、課題内容に応じて、信州大学センター関係者のみならず、信州大学教職大学院の教員スタッフまたはNITSフェローの応援を依頼する。

## **（2）研修観の転換に向けた「学び合いのコミュニティ」づくりに関する取組**

### **E) 管理職研修（通年研修）**

基本的には長野県内の各郡市からそれぞれ小中学校の校長を選抜し、高等学校からも代表を送り出していただき、計20名の新人校長を対象とした管理職専門研修を実施する。自律した学校経営を実現する専門職としての校長の力量を高めるために、「教育指導的リーダーシップ」だけではなく、学校管理・経営のマネジメント能力に裏付けられた「管理的・経営的リーダーシップ」を発揮する校長を育成する。集合研修のほかに、以下の4グループに分かれてのオンライン・グループミーティングを実施し、NITS本部の研修動画を活用することも推奨する。

また、受講生20名を勤務エリアごとに4グループに分け、各グループに長野県の校長職を経験している特任教授4名を配置して1年間を通して指導できる体制を整えるとともに、長野県内の現役校長複数名を「メンター校長」として委嘱し、対面講習において指導助言を依頼する。

- ・東信グループ …佐久、上小、更埴、高校
- ・南信グループ …諏訪、上伊那、下伊那、木曾
- ・中信グループ …塩筑、松本、安曇野、北安
- ・北信グループ …長水、上高井、中高・飯水、高校

◇主な研修メニュー

① <4月>ガイダンス・教育委員会の担当者からの講義

② NITS研修ビデオ受講：オンデマンド型研修（以下の中から2本以上の視聴レポート提出）

※視聴した内容を手がかりに勤務校でどのように活かしたのか（実践したか）を報告する。

No. 44 リスクマネジメント～学校の危機をいかに防ぐか～（講師：飯野眞幸）

No. 50 学校における働き方改革『先生が忙しすぎる』をあきらめない（講師：妹尾昌俊）

No. 52 学校財務マネジメント（講師：末富芳）

No. 59 働き方改革時代の管理職に求められるタイムマネジメント・スキル（講師：青木栄一）

No. 72 学校組織力の向上『みんなの学校をつくるために』（講師：木村泰子）

No. 101 学校の内外環境の分析と特色づくり（講師：浅野良一）

No. 102 学校ビジョンの理解と共有（講師：浅野良一）

No. 103 教職員が育つ学校づくり～構内OJTの考え方と進め方～（教師：浅野良一）

No. 116 学校安全（総論）（講師：渡邊正樹）

No. 136 地域とともにある学校づくり（講師：志々田まなみ）

③マネジメント研修（講師：信州大学教職大学院の特任教授：北澤嘉孝／賜正俊／内堀繁利／山浦貞一ほか外部講師による継続的な研修）、第1回研修会（5月）、第2回研修会（6月）：元信州大学准教授 青木一氏

<7月>オンライン・グループミーティングⅠ

④講義・演習（7月21日）（講師：住田昌治氏）

<9月>オンライン・グループミーティングⅡ

⑤各郡市校長会等での研修発表（研修会の企画・運営を実践する）

<11月>オンライン・グループミーティングⅢ

⑥研修のリフレクション

## **F) 学級づくり・学校づくり (8月6日)**

教職大学院の必修科目「学級づくり・学校づくり」の授業内容の一部を、長野県総合教育センターの希望研修講座としてプログラム化した連携講座であり、教職大学院の学生と長野県の現職教員とが協働して学び合う研修講座である。教職員が同僚性を高めながら、学校組織マネジメントに取り組む手立てや、子どもの特性に応じた支援の方法や援助チームのあり方について協働的・探究的に学ぶ講座である。

令和8年度も、チームビルディングの在り方を考える学校組織マネジメントの具体的な手立てや、学級内で特別に支援が必要な子どものために脇役になってしまったその他大勢の「バイ・プレイヤー」症候群を打破する支援型学級経営について学びます。

◇主な研修メニュー

<午前の部>①オリエンテーション+自己紹介/②「チーム学校の在り方を考える学級組織マネジメント」（講義・演習：信州大学特任教授 青木一氏）

<午後の部>③「支援が必要な子どもをつつむ学級集団づくり」（講義・演習：信州大学特任教授 青木一氏）/④振り返りとまとめ（総合教育センター 専門主事 荻原拓氏）

### G) オーダーメイド型研修（通年事業）

南信州サテライトキャンパスにおいて、校内研修や地域の自主的な勉強会の運営等に関し、課題解決の手助けや最新の情報提供などを行う窓口を運営する。教職大学院・南信州サテライトキャンパスの教員を中心にコンサルティングを担当する。原則として火曜日と木曜日の午後に相談等に応ずる時間を設定し、事前受付の内容に基づいて指導助言・コーチング等を行う。

この研修事業はあくまでもユーザーサイドのオーダーに寄り添って開講するプログラムとなるため、事前に計画することは難しいが、研修テーマ・内容・講師（ファシリテーター）・研修方法と期間についても、ユーザー側の目的やニーズに合わせて一緒に考え合ってすすめていく。なお、リクエストされた研修課題によっては、南信州サテライトキャンパスを学びの場として、各地からその課題に取り組みたい教員が集まる「学びのコミュニティ」づくりを意図して南信州エリアの教職員にアナウンスすることにも取り組む。

## 3 組織体制

### (1) 外部機関との連携状況

長野県教育委員会と信州大学教育学部・大学院教育学研究科とは古くから連携協定を結んでおり、定期的に教員養成にかかわる連携会議を開いて双方の課題やニーズを理解し合っ様々な取り組みを展開してきた。信州大学センター開設以後も、その母体である教職大学院が県内の現職教員の研修事業に協働するかたちで長野県教育委員会との連携を深めるとともに、近県の自治体からの参加者も受け入れてきた。また、当センター以外のNITS地域センターが企画する研修事業や他大学の教職大学院が企画する研修事業にも参加協力するなど、他大学との連携にも取り組んできた。

特に、NITS信州大学センターは、開設時より長野県教育委員会との共催事業や、長野県総合教育センターとの連携講座を毎年継続実施しており、令和8年度からの事業についても同様に長野県教育委員会や総合教育センターとの事前打ち合わせを経て、事業計画を立てている。その際、NITS本部の「研修観の転換」に連動する内容・方法を外部機関とも協議を重ね、連携関係を維持・発展させるとともに、ICT技術を積極的に活用して日常的な情報共有を心かけている。

令和8年度の事業においては、長野県教育委員会との共催事業を2件（A・E）、長野県総合教育センターとの連携講座を3件（B・C・F）実施する。さらに信州大学センター独自の事業（D・G）においては、拠点とする南信州サテライトキャンパス周辺の市町村教育委員会との連携を基盤とするとともに、オンライン環境を生かして、広く県内外の関係者と協働できる体制を整えていく。

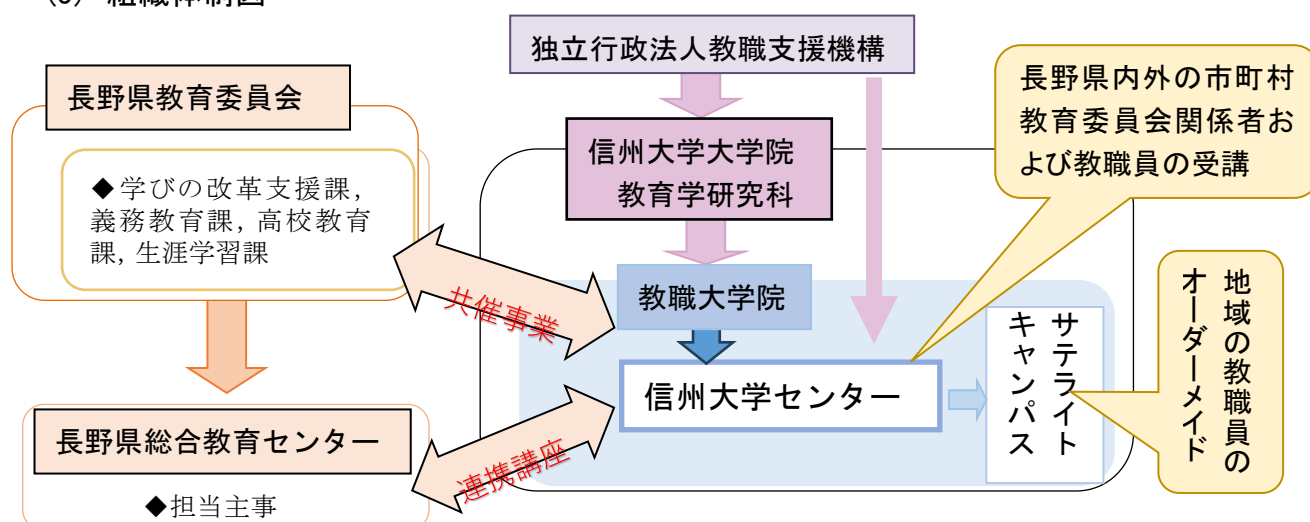
### (2) 組織体制

※申請者と連携機関に所属する者のそれぞれの担当・役割がわかるように記載すること

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	信州大学センター：センター長（信州大学大学院教育学研究科長）	西 一夫	信州大学センターの代表・統括	
2	信州大学センター：副センター長（教職大学院副専攻長）	伏木 久始	信州大学センター事業の全体のとりまとめ／県教委との共催事業・総合教育センターとの連携講座の企画・運営	
3	信州大学センター：副センター長（信州大学教育学部附属長野学校統括長／特任教授）	北澤 嘉孝	管理職マネジメント研修の企画・運営・講師	

4	信州大学教育学部附属松本 本学校園統括長／特任教授)	賜 正俊	管理職マネジメント研修の企画・運営・講師	
5	信州大学教職大学院：特任教授	山浦 貞一	信州大学教職大学院南信州サテライトキャンパス担当	
6	信州大学教職大学院教授・信州大学センター員	谷内 祐樹	更新し続ける教育観の運営・講師	
7	信州大学教職大学院：専攻長	谷塚 光典	信州大学教職大学院の教育活動と信州大学センター事業との調整	
8	教育学部総務グループ：主査	青木 真紀	信州大学教職大学院会計と信州大学センター会計との調整	
9	信州大学センター：事務補佐	土屋 陽子	信州大学センターの事務業務	
10	長野県教育委員会：学びの改革支援課長	一色 保典	中核教員研修および管理職研修の運営における連携	
11	(同)：義務教育課長	藤木 拓道	中核教員研修および管理職研修の運営における連携	
12	(同)：高校教育課長	柳沢 忠男	管理職研修の運営における連携	
13	(同)：生涯学習課長	市村 由紀子	コミュニティ・スクール地域コーディネーター養成講座における連携	
14	長野県総合教育センター：主事	荻原 拓	教職大学院と長野県総合教育センターとの連携講座の企画・運営	
15	長野県教育委員会：学びの改革支援課指導主事	武井 正樹	信州大学センターとの協働関係における会計業務	

### (3) 組織体制図



◇信州大学大学院教育学研究科長（西一夫）がNITS 信州大学センター長を兼ねる。

副センター長は2名（北澤嘉孝・伏木久始）

センター員は2名（山浦貞一・谷内祐樹）

#### 4 期待される成果

本センター事業における研修講座は、参加型の演習やワークショップを多く取り入れていることで、受講者が主体的に研修に参加し、研修内容を自分事として考える学びの場になっている。また、1回きりの講義を受講して終わるという講座はなく、オンライン環境も活かして継続的にフォローアップする仕組みを重ねることで、学びの質を深めていると言える。さらに、多様な他者と協働的に学び合う講座にすることで、研修に参加する意義が深くなり、多様性を欠きがちな日本の一般的な学校の体質に新たな発想を投げかける機会にもなっている。

こうした研修講座については、受講者の教育実践の質的向上に貢献できると考えているが、研修を受講した直後の満足度調査だけでは実際の有効性を検証することには限界があると考えられるため、受講者の現場での取り組みに対してオンラインシステムを活かしたフォローアップを可能な範囲で行うことにしている。

また、研修事業の成果をより広く還元するための工夫としては、信州大学センターのホームページを公開している。※URL→ <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/nits-center/> このホームページを随時更新することで、他の地域センター関係者に対しても当センターの取り組みを情報提供している。加えて、信州大学センター関係者のSNSメディアを活用した情報公開も継続して行うことから、「研修館の転換」に即して新たな研修のあり方を情報提供することにも貢献している。

特に、講師派遣事業やオーダーメイド型研修については、年ごとに利用者が増え、講師依存型から主体的な企画型の研修へとニーズが少しずつ変化していることから、それぞれの現場の事情に合った研修プログラムを自らデザインする学びを、個人研修として柔軟に支援していく。このサポートが結果的に多くの教育現場に対する実質的な貢献に繋がると考えている。

(以下、予算計画等は割愛しました)